

# 万能材料試験機操作方法

## I ロードセルを設置する。

(目安) 糸:5kgf 布:1kN(100kgf) 金属線:250kgf

## II 本体(2カ所)、パソコン、プリンターの電源を入れる。

パソコンが起動後、A/D電源を入れる。(パソコンの電源が入っている時にA/D電源が入っているとパソコンが起動しない。)



写真1 全体像

## III 【本体の設定】

- ①「LOAD AMP」の「POLARITY」で、引張の場合は「TENS」、圧縮の場合は「COMP」を選択。(写真2(a)参照)
- ②「CROSSHEAD CONTROL」の「TESTDIRECTION」は、引張の場合は「UP」、圧縮の場合は「DOWN」を選択。(写真2(b)参照)
- ③「CROSSHEAD CONTROL」の「UP」もしくは「DOWN」(写真2(c)参照)を押して、所定のチャック間距離(つかみ間隔)に設定する。
- ④上段の「EXTENSION CONTROL」の「RESET」(写真2(d)参照)を押す。  
「CROSSHEAD SPEED」の「RETURN SPEEDS」を設定。(値が大きい方が戻るスピードが速い:写真2(e)参照)
- ⑤上段の「EXTENSION CONTROL」の「SAMPLE BREAK」は「RET」がよい。(試料破断後、自動的に初期位置に戻る:写真2(f)参照)

## IV 【パソコンの設定:各種条件設定】

- ①基本アプリランチャーを立ち上げる(写真3参照)。
- ②ファイル呼び出す。適当なファイルがなければ、測定テスト用を選択する。
- ③<本体条件>をクリックし、必要事項を入力し閉じる。  
(必須項目:試験の種類、ロードセル定格、荷重レンジ、試験速度)  
\*荷重レンジがわからない場合は、最初にレンジを100%にして試験し、再度適当なレンジに設定する。
- ④<荷重校正>をクリック。  
<ロードセル定格確認> はい→<自動校正>本体パネルの「LOAD」が0になっていること(写真2(g)参照)を確認して、OK→<自動校正>本体パネルの「LOAD」が100になっていることを確認後、本体の「SPAN」(写真2(h)参照)を押して、パソコンのOKを押す。
- ⑤<解析条件>をクリック。(必須項目:標線間距離、チャック間距離、伸び原点)
- ⑥<試料情報>をクリック。試料名など必要項目を入力する。
- ⑦<表表示>で結果の出力項目を設定する。必要な解析値、統計値の項目を選択し、ドラッグドロップする。

次ページへ続く

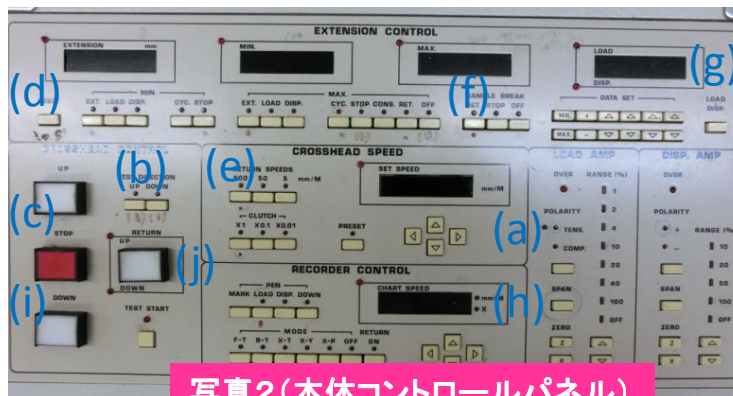


写真2(本体コントロールパネル)



写真3(パソコン画面)

## V 【試料の装着からスタート】 \* ロードセル容量以上の荷重をかけると壊れるので注意

- ①上チャックを本体から外して試料を取り付け、本体にセットする。引き続き試料を下チャックに取り付ける。(写真4参照)
- ②パソコン側の<状態表示>の<移動量クリア>を押す。
- ③本体の「UP」(引張の場合)もしくは「DOWN」(圧縮の場合)を押し、スタート。(写真2(i)参照)
- ④切断後、ヘッドが初期位置に戻っていなければ、本体の「RETURN」(写真2(j)参照)を押す。
- ⑤上、下チャックから試料を外し、新しい試料に取り替える。
- ⑥(①~⑤)を必要回数繰り返す。

## VI 【データの印刷と保存】

- ①1ロットの試験が終了した場合、<ファイル>(写真5(α)参照)から(表とグラフの一括印刷)を選択し、結果を印刷する。
- ②このロットを終了する場合、<ロット終了>(写真5(β)参照)を押す。これによりデータが保存される。
- ③新しいロットを始める場合は、VIの①へ戻る。

## VII 【終了】

- ①本体、パソコン、プリンターの電源を切る。ただし、パソコンの電源が切れるまでに5分ほどかかる。
- ②パソコンの電源が切れたら、A/Dの電源を切る。

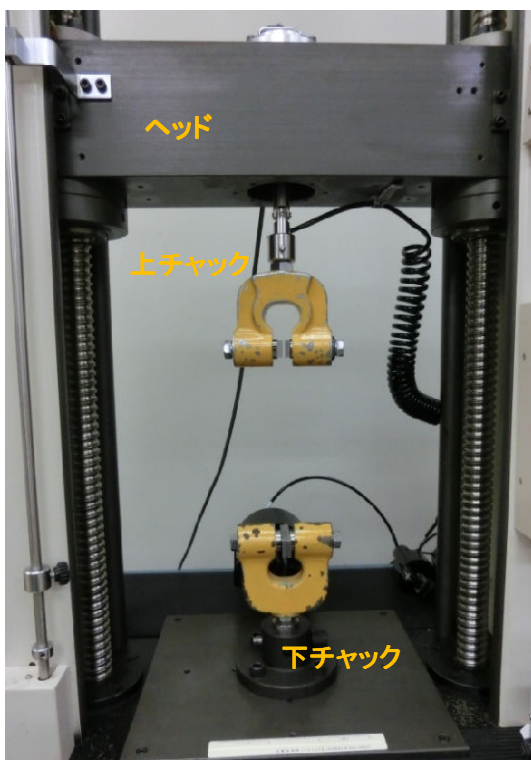


写真4(本体)

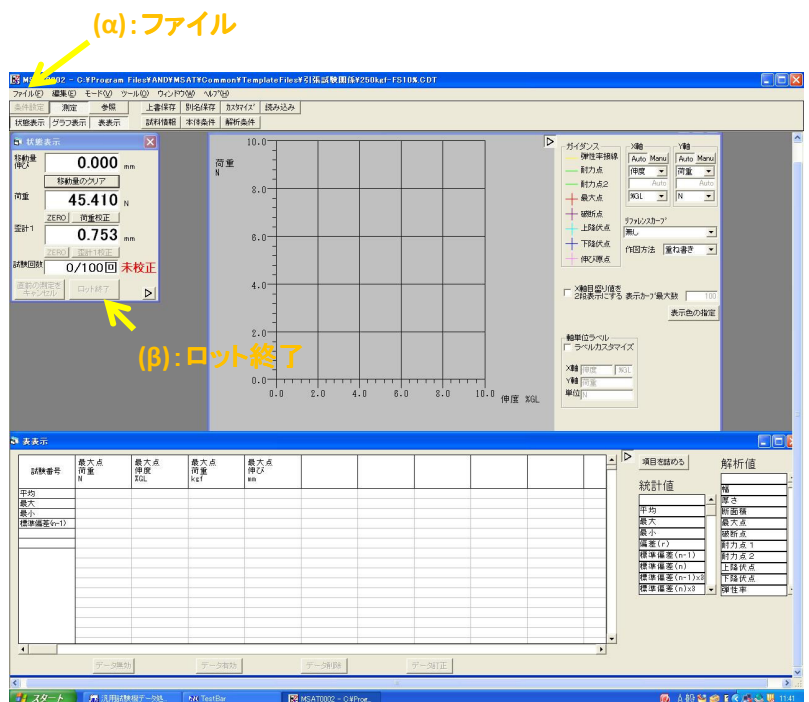


写真5(測定画面)